

# 『青二才』

作 横川良明氏 翻案 緋岡篝

2020年度周防地区新人大会最優秀賞受賞

2023年度周防地区新人大会最優秀賞受賞



## 作品紹介

思考停止状態で安易に謝罪してしまう社会の風潮に疑問を投げかける作品。

大阪府大会出場の東住吉高校の作品を自由に翻案させていただきました。

光丘・光高校版は、スマホ使った演出で、ネット社会の同調圧力を描くことにも挑戦してみました。<https://youtu.be/3SIJ3i51nu4> こちらで自主公演の様様を限定公開してます。

登場人物 メイン6人～（生徒数を加減できます。役を兼ねることも可能です）

上演許可は横川良明さんをお願いします。

[narifuri\\_kamawazu0613@yahoo.co.jp](mailto:narifuri_kamawazu0613@yahoo.co.jp)

自由に改変いただいて構わないとお聞きしております。

## 青二才

横川良明／作

緋岡善／翻案

### ■キャスト

佐藤

佐藤の母

担任

生徒A (中村)

生徒B (小林)

生徒C

生徒D (加藤)

生徒E

生徒F (吉田)

生徒G (山田)

生徒H (佐々木)

生徒I (山口)

生徒J

生徒K

生徒L

生徒M

生徒N

生徒O

生徒P

鈴木

鈴木の母

生徒A

生徒B

生徒C (斉藤)

フォローワーA

フォローワーB

フォローワーC

フォローワーD

高橋

高橋の母

生徒A

顧問

生徒B

生徒C

生徒D

謝らせ人A

謝らせ人B

謝らせ人C

謝らせ人D

## 【第1話】「不快にさせてしまっって申し訳ありません」

人影が1列になって頭を下げている。

一同 このような事態を招いてしまい申し訳ございません。

フラッシュの放列。高鳴る音楽。

佐藤 何でこの人謝ってるの？

そのひと声と共に場所が変わる。

そこは、佐藤家のリビング。朝の風景。スマホを見ながら朝食をとっている佐藤。流れているのはワイドショー。

佐藤の母 何が？

佐藤 これ、昨日の事故、保育園の。

佐藤の母 ああ。どつなつたの？

佐藤 何が？

佐藤の母 ひとり意識不明の子がいたでしょ。

佐藤 わかんない。

佐藤の母 可哀相よね。まだ小さいのに。

佐藤 でもさ、悪いのは車運転してた方でしょ。

佐藤の母 そらね。

佐藤 じゃあ、何で保育園の方が謝らなきゃいけないの？

佐藤の母 そりゃ、誰かが謝らないと丸くおさまらないからでしょ。

佐藤 えー。

佐藤の母 ほら、もう時間でしょ。早く行きなさい。

すると、場面は佐藤の通学風景に。

佐藤 それは、まだ中学の頃の話です。うちの中学には週に一度、金曜の6時間目にロングホームルームがありました。うちのクラスは担任の先生のひと声で、なかよしの会という会が開かれるようになりました。

気づくと、生徒たちがまるで裁判のように椅子に座って対面している。佐藤はさながら議長の本ジションでクラスメイトたちに向けて声をあげける。

佐藤 それでは、今週のなかよしの会を始めます。何か意見がある人は挙手してください。

佐藤の母 (手を挙げて) はい。

佐藤 はい、中村さん。

生徒A 掃除当番についてなんですけど、陸上部の小林さんが今週もサボっていたんですけど、どうにかしてください。

生徒B はあ？ ちゃんと代わりの子にお願いしたけど。

生徒A 前回もその前も代わってもらってましたよね？ 結局一回も自分でやってないのはずるいと思いません。

生徒B しょうがないじゃん。部活なんだから。

生徒A 部活だからって特別扱いしたら不公平だと思います。結局 同じ子がずっとやる羽目になるんだから。

生徒B その子がいいって言うてんだからそっちが口をはさむことじゃなくね？

生徒A 小林さんが怖くて嫌って言えないだけじゃないんですか。

生徒B はあ？

生徒A では決をとります。これからは部活であつてもちゃんと自分の当番は自分でやった方がいいと思っ人、挙手をしてください。

佐藤

生徒B

生徒A

生徒B

大多数が手を挙げる。

佐藤 では、多数決により今後部活による掃除当番の代理は認めないということを決めました。

生徒B 小林さん、これまで迷惑をかけたみんなに謝罪してください。

生徒A 今まで自分の勝手な理由で掃除をサボってますみませんでした。これからはちゃんと自分の当番は自分でやります。

生徒B はい、わかりました。

一同

生徒たち、散り散りになる。

佐藤 こんなふうにクラスの中で問題になっていることをみんなで話し合い、解決するのがなかなかの会の目的です。

佐藤は学級日誌を持って担任のもとへ向かう。  
失礼します。先生、今日の日誌です。

担任 佐藤

ありがとうございます。なかよしの会は。

担任 佐藤

小林さんと中村さんがちよつと言ひ合いになつちやつたんですけど、小林さんも最後は自分が悪かったことを素直に認めて、謝ってくれました。

担任 佐藤

そう、良かった。本当、佐藤さんが委員長をやってくれたおかげで、先生、すごく助かる。ありがとうございます。

担任 佐藤

佐藤さんはどうして先生がこのなかよしの会をみんなにやらせているのか、理由ってわかる？

担任 佐藤

え、クラスの手とまりをつくるため、ですか？

担任 佐藤

それもあかな。でもね、本当の理由は、みんなに正しい大人になってほしいの。正しい大人。

担任 佐藤

人間だもの。誰でも間違ったり悪いことをしてしまうときはあると思う。はい。

そして、佐藤はまだ教室へ。今日もなかよしの会が始まる。  
加藤くんがコーヒーだけやたらいい発音でカフィーと言うのが気になって仕方ないので、やめてください。

生徒C

生徒D

佐藤 それでは、今週のなかよしの会を始めます。何か意見がある人は拳手してください。  
 生徒G (拳手して) はい。  
 佐藤 はい、山田さん。  
 生徒G 佐々木くんがよく山口さんに向かってブスだと言っています。女の子に対してブスだと言  
 のは可哀相なのでやめてください。  
 生徒H 本当ですか、佐々木くん。  
 佐藤 言ってます。  
 生徒G 言ってみました。私、ちゃんと記録しています。今週は月曜日2時間目の休み時間に「おい、  
 どけブス」。火曜の体育の前に「げ。ブスが水着かよ」。木曜の放課後に「ブスの通ったあと  
 はくせえ」と言いました。  
 佐藤 佐々木くん、謝ってください。  
 生徒H (拳手して) はい。  
 何ですか。  
 生徒H ブスにブスって言って何が悪いんですかー？  
 生徒G 人が傷つくことを言っただけじゃないと思います。  
 生徒H でも、前になかよしの会で嘘をついてはいけなと言われました。だから、僕は本当のこと  
 を言っているだけです。  
 生徒G そもそも山口さんはブスじゃないと思います。  
 生徒H ブスだと思います。  
 生徒G ブスじゃありません。  
 生徒H じゃあ、山田さんは山口さんと顔を交換できますか。  
 生徒G それは――  
 生徒H 答えられない時点で山田さんも山口さんのことをブスだと思っていると思います。  
 生徒G 思っています。  
 生徒H 山田さんは嘘をつきました。謝ってください。  
 生徒G 佐々木くんは傷つけられました。謝ってください。  
 生徒H 僕はブスにブスと言っただけなので何も悪くありません。  
 生徒G たとえ本当のことでもブスにブスってはいけなと思います。  
 生徒H 僕はブスだとわかっているのに嘘をついてブスじゃないと言っ方がよっぽど失礼だと思いま  
 す。  
 生徒G ブスに生まれたのは山口さんの責任ではないので、悪く言っるのは可哀相だと思います。  
 生徒H そっやって上から目線で可哀相って言うてる方が失礼だと思います。  
 生徒G 上から目線じゃないし、失礼じゃないです。  
 生徒I (手を挙げて) もうやめてください。  
 佐藤 山口さん。  
 生徒I 私が…ブスだから、悪いんです。ブスに生まれてしまってますみませんでした。  
 一同 はい、わかりました。  
 佐藤 生徒たち、散り散りになる。佐藤は担任のもとへ向かう。  
 担任 失礼します。先生、今日の日誌です。  
 佐藤 ありがとう。どうだった、なかよしの会は。  
 ……  
 どうしたの？  
 担任 先生、悪いことをしたときにちゃんと謝れるのが正しい大人、なんですよ。  
 佐藤 そっよ。  
 担任 じゃあ、悪いことって何ですか？  
 佐藤 え？  
 担任 その人のせいじゃないこととか、どうしようもないこととか、いっぱいあるのに、それで  
 も、誰かが嫌な気持ちになったり、傷ついたって言ったら、それって悪いことになるんでは  
 ないか？  
 担任 生徒たちがまた教室に戻ってくる。いつもは佐藤がついている議長のボジションに担任がつく。  
 今日、昨日、

親御さんから連絡をもらいました。なんでも山口さんが学校に来られなくなったのは、クラスで山口さんの容姿についてみんなで悪く言ったからだ、と本人は言っているそうなんです。これは、本当なんですか。

生徒たち、黙りこくっている。

佐藤さん、どうなんですか。

担任

佐藤

もし本当にそんなことがあったとしたら絶対に許されないことです。佐藤さん、あなた学級委員長でしょう。何も知らなかったの？

担任

佐藤

あの、えっと。佐々木くんが山口さんに対してブスと言っていました。

担任

生徒H

はい、本当です。

担任

生徒H

どうしてそんなひどいことを？  
本当のことだからです。嘘をつくのは悪いことだと前になかよしの会で言われました。

担任

生徒G

それで、佐々木くんはちゃんと山口さんに謝ったの？  
謝っていません。

担任

生徒J

謝ったのは山口さんです。  
どうして山口さんが？ 誰がそんなことをさせたの？

担任

生徒K

え？  
佐藤さんが、なかよしの会で山口さんに謝らせました。

担任

佐藤

違います、私、そんなこと——  
私も前に納得のいかない理由で佐藤さんに謝らせられました。

担任

生徒K

私も謝らせられました。  
私もとても傷つきました。

担任

生徒O

だから佐藤さんにも謝ってほしいです。  
ちゃんと謝罪してほしいです。

担任

生徒N

私が…なんで、私が…？  
佐藤さん、あなたのせいで不快な思いをしたの。そのことについてどう思うの？

担任

佐藤

私は、ただ正しいことをしただけです。  
佐藤さん、あなたのしたことは本当に正しいことなの。

担任

佐藤

だって…先生が…。  
佐藤さん、謝りなさい。

担任

佐藤

嫌です。  
私は何も悪いことをしていません。  
謝りなさい。

担任

生徒たち

あーやまれ。あーやまれ。  
生徒たちの謝れコールがどんどん高まる。追いつめられていく佐藤。

佐藤さん、悪いことをしたら、ちゃんと認めて謝れることが正しい大人になるっていうことなのよ。

追いつめられる佐藤の周りで、無責任な観客が熱狂する。それは、まるで魔女裁判の様相。佐藤が謝ろうとした瞬間、音楽が爆発する。その狂騒から鈴木が飛び出す。

鈴木

何でこの人謝ってるの？

## 【第2話】「傷つけてしまったって申し訳ありません」

そのひと声と共に場面が変わる。

そこは、鈴木家のリビング。朝の風景。スマホを見ながら朝食をとっている鈴木。流れているのは

ワイドショー。

鈴木之母

何が？

鈴木之母

だって「れ悪いことをしたのは子どもの方なんですよ。

鈴木之母

ああ、ダメな息子持つと女優も大変よね。

鈴木之母

子どもったってとくに成人してるわけじゃない？

鈴木之母

そつね。

鈴木之母

なのに何で親が出てきて、頭を下げなきゃいけないの。変じゃない？

鈴木之母

でも、親である以上、育てた責任があるんだから。

鈴木之母

えー。

鈴木之母

どれだけ大きくなって、親からすれば子どもは子どもなの。だから、子どもが悪いことを

したら親が謝るし、親が悪いことをしたら子どもが責任をとる。それが、親子なのよ。

鈴木之母

じゃあ、お母さんが悪いことをしたら私が謝るの？

鈴木之母

ママがひなちゃんに迷惑をかけるようなことするわけじゃないじゃない。ほり、もう時間だし

鈴木之母

よ。早く行きなさい。

鈴木之母

すると、場面は鈴木の通学風景。

鈴木之母

私はお母さんとふたり暮らしです。うちのお母さんは氣立てがよくて見た目も若くて、よく

クラスの子たちも羨ましがられる目慢のお母さんです。でも、たったひとつだけ、私からす

るとどうしても受け入れられないところがありました。

鈴木之母

あ、おはよう。

鈴木之母

おはよう。

鈴木之母

今週の「文スト」見た？

鈴木之母

見たよ。もう太中（だちゅつ）最高。

鈴木之母

38ページの左上のコマがな。

鈴木之母

わかる。あの左上のコマで死んだ。

鈴木之母

カフカ先生はまじで神。

鈴木之母

公式が最大手すぎる。

鈴木之母

もう私、ちょっとあらがり過ぎて、早速漫画にしたわ。

鈴木之母

えー見たい見たい見たい！

鈴木之母

鈴木と生徒B、生徒Aのスマホの画面を一緒に持って覗き込む。

鈴木之母

良すぎる…。

鈴木之母

もっこの太宰の照れた顔が。

鈴木之母

太中の生きている世界に生まれてきて私は幸せだよ。

鈴木之母

同じ世界に生きる奇跡な。

鈴木之母

感謝しかない。

鈴木之母

そいえば、鈴木、昨日、スイパラ行ったんですよ。いいな。

鈴木之母

え。何で知ってるの？

鈴木之母

流れてきたもん、ツイート。

鈴木之母

ああ。

鈴木之母

（ケータイの画面を見て）今日はひなとスイパラへ。「太宰から嫌〜」と言いながら結局ひな

が食べたケーキは13個。甘いものが我慢できないのはつゆのDNAかしら（とほほ）。

鈴木之母

いいよ、わざわざ読まなくても。

鈴木之母

すっごい。これ、3000いいねもされてるよ。

鈴木之母

すっごい人気だもんね、鈴木母の愛娘ツイート。

鈴木之母

何がそんなに面白いの？全然普通じゃない？

鈴木之母

えー。でもなんか読んでほのぼのするよ。

鈴木之母

こんな仲いい親子いいなって思うもんね。

鈴木之母

普通だよ。

生徒A いやいや普通じゃないから。高校生になって、親と一緒にスイパラとか普通行かないから。うちとかもうほとんど話をしないよ。

生徒B そんな仲悪いの？

生徒A 仲悪いつていうか、それが普通じゃない？ 別に特に話すことないし。

生徒B 親だしね。

生徒A まさか親と推しカブの話とかできないしね。

生徒B 私、まじで親に腐ハレしたら死ぬ。

生徒Aと生徒Bが鈴木を置いて先に行く。

鈴木 私の母はいわゆる人気ツイッターというやつだ。ひとり娘の私とのやりとりをまとめたいートが何度かバズって、気づいたらフォロワー20万人超のちょっとした有名人になった。

後ろから生徒Cがやってくる。

生徒C おはよう。

鈴木 あ、おはよう。

生徒C 何ポーズしてんだ。

鈴木 ううん、別に。

生徒C 変なやつ。先行くぞ。

鈴木 うん。

生徒Cが去っていく。それを見ていた生徒Aと生徒Bが駆けつけて。

生徒A なになになに。

生徒B いい感じじゃん。

鈴木 いやいや、何でもないから。

生徒B いつから斉藤とそいうことになってたの。

鈴木 なってないから。普通だから。

生徒A え、でもいいなら、斉藤って結構いいよね。

生徒B 彫り深いし、イケボだしね。

生徒A 斉藤ってさ、どっちだと思っ？

生徒B え、攻めでしょ。

生徒A と思わせるの受けも悪くない。

生徒B 悪くない。

鈴木 変なこと言っていないで。行くよ。

鈴木と生徒A・Bが去っていく。

別の場所から鈴木之母が現れる。アルバムをうれしそうに眺めている鈴木之母。そこへ、鈴木が家に着く。

鈴木 ただいま。

鈴木之母 おかえり。ひなちゃんひなちゃん、ちよつとこっち。

鈴木 何(と、母のもとへ)。

鈴木之母 ほら見て。これ、ひなちゃんが3歳のときの写真。

鈴木 டுத்தのいきなり。

鈴木之母 お掃除をしたら、つい手が止まらなくなっちゃって。なつかしい。

鈴木 ほら見て。こっちは、お父さんがいなくなったあとの。もう12年になるのね(と、写真をケータイで撮影する)。

鈴木 何してるの。

鈴木之母 あとでアップしようと思っ。

鈴木 変なこと書かないでよ。

鈴木之母 変なことなんて書いてないでしょ。

鈴木 お母さんのツイート、友達も見てるんだから。

鈴木之母 いいじゃない、別に。

鈴木之母 母のもとを離れる。

鈴木之母 なつかしい写真が出てきた。これは娘が5歳のとき。夫と離婚し、塞ぎこんでいた私に娘が

言ってくれた「これからはひながパパのわりになるね」あの言葉のおかげで、私は絶望から立ち直ることができたんだ。

生徒Cがやってくる。

生徒C これ、鈴木母ちゃんのアカウントなんだって？

鈴木 斉藤くん。え？ 誰から聞いたの？

生徒C この間のツイート、めっちゃ感動した。俺も思わずフォローしちゃったもん。

鈴木 いいよ。どうせ大したことないツイートしかしないんだから。

生徒C いいよな。母ちゃんと仲良くして羨ましいよ。

鈴木 普通だよ。

生徒C ……今度さ、ふたりでどこか遊び行かない？

鈴木 え。

生徒C いや？

鈴木 うっん、いやじゃない！

生徒C じゃあ決まり。どこ行くか考えてて。

生徒C 生徒C、去っていく。

鈴木の母 これは娘が7歳のとき、オネシヨをして泣いている顔。かわいい。

生徒Aと生徒Bがやってくる。

生徒A あんた、7歳までオネシヨしてたの？

鈴木 は？ 何の話？

生徒B 今朝、鈴木母がツイートしてたよ。

鈴木 はあ？

生徒A 7歳って小2でしょ。さすがにヤバくない？

鈴木 ちょっと待って。え？ そんなことまでつぶやいてるの。

生徒B うん、もう1万いいねとかされてたよ。

鈴木 信じらんない。私、帰る。

生徒A 気にしないでいいよ、どうせ小学校の頃の話なんだし。

鈴木 いやいや、ありえないでしょ、普通に考えて。

生徒Cがやってくる。

生徒C おはよ。

鈴木 ……（小声で）おはよ。

生徒C どした？

鈴木 いや、斉藤くん、今朝の、あれ、見た？

生徒C あれ？

鈴木 うちの、母の。

生徒C ああ、オネシヨ。

鈴木 ……（踵を返して）ちょっと私、死んでくる。

生徒C 何で？ かわいいよ。

鈴木 え？

鈴木って、子どもの頃の写真、めっちゃ可愛いよな。今度うちまで見に行つていい？ アル

生徒A・B・C、去る。鈴木だけが残って、そこへ鈴木の母がやってくる。

鈴木の母 あれ？ ひなちゃん、シャンプー変えたの？

鈴木 え？ 何の話。

鈴木の母 お風呂、新しいの、あったから。

鈴木 あ、別に、なんとなく、いつものやつ、切れてたから。

鈴木の母 ずいぶん高そうだったけど。

鈴木 そつでもないって。じゃあ、私、寝るね。お休み。

鈴木、去る。

鈴木の母 【速報】ひなに彼氏ができたかもしれない。

鈴木が登校する。別の方向から生徒Cがやってくる。

鈴木 おはよつ。

生徒C、鈴木を見て、踵を返す。  
鈴木　え。ちょっと待って。え。何？　どしたの？  
生徒C　いや、なんか悪いかと思って。  
鈴木　え。何が？  
生徒C　いや、俺と一緒にいると、彼氏が嫌かと思って。  
鈴木　だから、何の話？  
生徒C　いるんだろ、彼氏。  
鈴木　…はあ？  
生徒C　だって、母ちゃん、ツイートしてたから。彼氏できたかもって。  
鈴木　…はあ？　ないし。全然ないし。  
生徒C　え、でも。  
鈴木　ないないないない、本当ない。っていうか、むしろ、私が好きなのは—  
生徒C　だったら、俺、なってもいい？　鈴木の彼氏。  
鈴木　え？  
生徒C　俺がなりたいたんだけど、彼氏。  
場面変わって、生徒A・Bが飛び出してくる。  
生徒A　鈴木〜！  
鈴木　何？　どつしたの？  
生徒B　どつしたの、じゃないよ。何浮かれた顔してるの？  
鈴木　別に浮かれてなんかないけど。  
生徒A　今すぐ家に帰った方がいいよ。今日の学校は生き地獄だ。  
鈴木　何？　大げさ。  
生徒B　もしかして、まだ、見てないの？  
鈴木　何が？  
生徒A　ツイート、鈴木母のツイート。  
生徒B　あんた、20万人相手に廣ハレされてるよ。  
鈴木　え？  
生徒A、鈴木にケータイを差し出す。画面を覗き込む鈴木。  
鈴木　娘の本棚の奥にあった漫画『先生いいわるしないでください。』最近はこののが流行っているのかしら？  
生徒A　もつ10万いいねもされてるよ。  
生徒B　あんた、もつ一般の世界は生きていけないと思っただ方がいいかも。  
鈴木　何これ。  
生徒A　そこへ、生徒Cがやってくる。  
生徒A　あ、おはよう。  
生徒C、鈴木を見て踵を返す。  
鈴木　斉藤くん。  
生徒C　…ごめん、ちょっとキモイ。  
鈴木Cが去る。場面変わって、そこは鈴木家のリビングに。  
鈴木　…ごめん、ちょっとキモイ。  
鈴木　心ざけんよよ。  
鈴木　どつしたの、ひなちゃん。  
鈴木母　何勝手に人の性癖全世界に向けて晒してんだよ！  
鈴木　何怒ってるのよ、怖い。  
鈴木母　娘のプライベートを自分の承認欲求のエサにしてんじゃないやねえよ、クソババア！  
鈴木　何て言い方するの。お母さん、そんなひなちゃん好きじゃない。  
鈴木　うっせえ！　お前のせいでこっちがいつもとんだだけ迷惑してると思っただよ！　何が愛娘ツイートだ。ろくに母親らしいこともしてないくせに、何でもかんでも美化しやがって。勝手にフィルターかけて日常補正してんじゃないやねえぞ！  
鈴木母　やめて、ひなちゃん。  
鈴木　今すぐアカウント消せよ、こら！　今までツイートのネタにしてすみませんって謝れよ！  
鈴木母　鈴木母の母、ケータイに手を伸ばし。

鈴木の母　今夜、娘と喧嘩になりました。年頃の娘というのは難しいものです。母親として勉強の毎日です。

フオロワーたちが現れる。

鈴木　はあ？

フオロワーA　私も同じ年頃の娘を持つ身だからよくわかります。

鈴木　はあ？

フオロワーB　ひなママさんみたいないいお母さんの何が不満なんでしょうね。

鈴木　はあ？

フオロワーC　若い時は思慮が浅く間違いを犯しやすいもの。親として……。

鈴木　ちよっと待って。何で私が悪いことになってんの？

フオロワーD　いつかひなママさんの愛情をわかってくれるときが来ますよ。フアイト。

鈴木　うるせえ！　お前らに何がわかるんだよ！

鈴木　ひなちゃん。どうしてわかってくれないの？

鈴木　やめてよ。

鈴木の母　お母さんはひなちゃんのことをいちばんに考えているのよ。

鈴木　やめてっぺ。

鈴木の母　それなのにどうしてお母さんを責めるの。

鈴木　やめてっぺは。

鈴木の母　お母さん、悲しい。

鈴木　……。

鈴木の母　お母さんはひなちゃんのためだけに17年間ずっと頑張ってきたのに。

鈴木　……。

鈴木の母　ひなちゃんにこんな仕打ちを受けるなんて。

鈴木　……。

鈴木の母　お母さんが悪かったのよね。お母さんがもっとしっかりしてたら、ひなちゃんの気持ちわかってあげられたのに。

鈴木　……。

鈴木の母　もしお父さんがいてくれたら、ひなちゃん、こんなふうにならなかったのに。お母さんが、

お父さんに捨てられちゃったから、ひなちゃんをひとりにさせちゃったのね。

鈴木　……。

鈴木の母　全部、お母さんが悪いのよね。

鈴木　……。

鈴木の母　本当っ。

鈴木　……。

鈴木の母　良かった。ひなちゃん、お母さんのこと許してくれるのね。うれしい。

鈴木　……。

鈴木の母　……。

高橋　何でこの人謝ってるの？

そのひと声と共に場面が変わる。  
そこは、高橋家のリビング。朝の風景。スマホを見ながら朝食をとっている高橋。流れているのはワイドショー。

高橋の母 何が？

高橋の母 だって銀メダルだよ。世界で2番目だよ。なのに、何で謝らなきゃいけないの。

高橋の母 ああ。

高橋の母 てか、誰に謝ってるの。金がとれなくてすみませんって、悔しいのはこの人じゃん。何で関係ない人たちに謝ってるの。

高橋の母 なにムキになってるの。

高橋の母 だって。

高橋の母 しょうがないじゃない。国の代表で行ってるんだから。

高橋の母 代表。

高橋の母 税金で行ってるわけだし。

高橋の母 税金。

高橋の母 こんだけたくさんの人が応援してるんだから、そりゃ負けてヘラヘラしてたら、応援する側

高橋の母 だってなんだそれってなるでしょ。

高橋の母 たくさんの人が応援。

高橋の母 ほら、もう時間でしょ。早く行きなさい。

生徒A すると、場面は高橋の部活風景に。試合終了のブザーが鳴る。

生徒A

3年間、苦しいこともたくさんあったけど、みんなと演劇ができて本当に楽しかったです。

中国大会、ベスト4まで、全国大会、連れて行ってあげられなくてごめんなさい。来年こそ

はみんなで頑張ってください。

高橋

生徒たちが解散する。  
先輩たちが引退した。目標だった全国大会。先輩たちと全国大会に進みたかった。その瞬間

顧問

生徒たちが発声練習をしている。そこに顧問がやってくる。  
こんにちは。

顧問

(誰かわからず) はい。

顧問

あ、この春から赴任してきました松本と言います。前任の井上先生に代わって新しく演劇部の顧問になったので、ちょっと見字に。

顧問

あ、よろしくお願ひします。

高橋

発声練習をする生徒たち。

高橋

新しく部長になった私はイチから練習メニューをつくりなおした。みんなもなんだかんだ言

高橋

ってついてきてくれた。今年こそは何としてでも全国。その目標が、私たちをつないでくれ

高橋

ていた。  
練習しなきゃいけないってどういふことですか？

高橋

しなきゃいけないって、言い方はないんじゃない？

高橋

だって、休みを入れるって先生が。

高橋

君、ニュース見てる？

高橋

え？  
私じゃなくて、決めたのは文科省。よくニュースでやってるでしょ、部活動の在り方に関する総合的なガイドラインっていうのが制定されて、週に最低一日の休養日を定めることになっ

高橋

たの。  
でももうすぐ、公演 なんです。今は一秒でも長く練習しないと。

高橋

あ、今日も六時までには片づけて帰ってね。  
延長届けは出しますけれど。

高橋

1日の活動時間は、平日2時間程度、休業日は3時間程度。

高橋

はい？

高橋 顧問  
ガイドラインです。

高橋 顧問 2時間って、そんなの発声とか基礎トレやったら、通し稽古もできない。

顧問

私じゃないから、文科省 だから。ね、よろしく。  
去っていく。

高橋 何あれ。むちゃくちゃムカつくんだけど。

生徒C てか、1日2時間とか無理じゃね？

生徒D 無理だよ。

生徒B どうする、高橋。

高橋 無視でしょ。関係ないじゃん、私たちには。

生徒C でも追い出されるよ学校は。

顧問

朝練だったらいいでしょ。放課後削られた分は朝練で補おう。  
やってくる。

高橋 あの。変なこと言つつのやめてもらえませんか。

顧問 言つてないよ、変なことなんて何も。

高橋 1年の木村が、今度先輩に何か言われたら先生に言いきなさいって言われたって。

顧問 言いましたよ。

高橋 言ってるじゃないですか。

顧問 変なことじゃないでしょう。

高橋 そんな言い方したら私たちが1年をいじめてるみたいじゃないですか。

顧問 木村さん泣いてましたよ、練習についてこれないのは、あなたの努力が足りなかったって  
言われたって。

高橋 当たり前のことじゃないですか。

顧問 高橋さん、部活動以外の時間にも部員に自主練を無理強いそつじゃないですか。

高橋 何の話ですか？

顧問 家に帰ったらセリフ確認。ダメ出しされた部分の自己練。これじゃ勉強する時間がないっ  
て。

高橋 でも強くなるためには、そついう自主性が大事なんです。

顧問 学校の目的は部活じゃないでしょ。学業に支障が出るような内容は認められません。

高橋 でも、私たちはやってきました。

顧問 それはあなたたちの時代までの話です。そんな根性論が通用する時代は終わりました。もっ  
と効率を考えてやらないとよ。あと、無理強いはなしで。

高橋 そんなんでどうやって強くなるんですか？

顧問 強くなつてどうするんですか？

高橋 全国大会に出るんですか？

顧問 全国大会に出て、どうするんですか？

高橋 えっ、もつとたくさんの方に私達の演劇を観てもらうんです。

顧問 で、その後の人生が変わりますか？ それで、大学に行けますか？

高橋 顧問が去る。高橋、生徒のもとへ向かう(生徒Dがいなくなっている)。

生徒B ダメだ、私、松本絶対無理。なんていうか人間の根本が合わない。

高橋 つかそれより林ももう来れないって。

生徒B え。

生徒C 朝練。親にバレたらしくて。

生徒B そんな時間があるなら勉強しなきゃいいって。

高橋

顧問のもとへ向かう。

高橋 どういうことですか？

顧問 今度は何ですか？

高橋 次の日曜、部活は休みだとして。

顧問 そつですけど。

高橋 なんとかガイドラインでは、週末の休養日は1日以上あればいいんですよ。

顧問 あ、ちゃんと勉強してききましたね。

高橋 毎週土曜は休みにしています。どうして日曜まで休みなんですか？

顧問

プライベートです。

高橋

先生、今度の日曜、予定があつて。だからお休みです。

顧問

何ですかそれ。

高橋

先生だつてプライベートはあります。

顧問

それはわかりますけど。でも、もつ来月には地区大会ですよ。

高橋

たくさん練習をしたからつてうまくできるとは限らないですよ。

顧問

じゃあ効率的にうまくなる方法を教えてください。

高橋

先生、演劇はわかりませんか。

顧問

顧問じゃないんですか。

高橋

割り当てられたから引き受けただけです。

顧問

質を上げるには一定の練習量が必要だと思います。

高橋

何だか大人みたいなこと言つようになりましたね。

顧問

子ども扱いしないでください。

高橋

じゃあ、大人として聞きます。今、部活の運営が社会問題になっていきますよね。そのことに

顧問

ついてどう思いますか？

高橋

休養が必要だというのはわかっているつもりです。でも、私はもつと部活がしたいです。

顧問

あなたのその部活がやりたいっていう我儘で、先生のプライベートが犠牲になっていること

高橋

についてはどう思いますか？

顧問

それは(答えられない)。

高橋

それに、部員だつて必ずしもみんながあなたと同じぐらい部活をやりたいとは限らない。

顧問

そんなことないと思います。

高橋

本当に？

顧問

生徒たちが別の場所にいる。

高橋

はい、みんなこつち。いくよー。

顧問

生徒たち、自撮りする。

生徒D

あー、楽しい。

生徒C

私、カラオケ来たの、初めて。

生徒B

私も。ずっと部活だったもんね。

生徒C

やっぱ休みもないとね。せつかくのJKだし。

生徒D

ね。次、ラテバ行かない？

生徒B

行く！

生徒一同

生徒たち、去つていく。

顧問

学校生活は部活だけがすべてじゃない。先生は、もつといろんなことに目を向けてほしいと

高橋

思っています。

顧問

(答えられない)

高橋

高橋さん、ブラックはよくないですよ。

拍手。

高橋

あー、悔しい！

高橋

高橋、落ち着きな。

高橋

だつてこんなボロボロ。ありえないじゃん。

高橋

ちよつと調子が悪かつたかな。

高橋

そつう問題じゃないつて。何あのセリフのぬけ。10ページ近くぶつ飛んだじゃん。

高橋

しょうがないよ、最近通しできてなかつたし。

高橋

もあれだよ、なんかね、ひとり走つて、息が合つてなかつたつていうか。

高橋

けつこつなエスパーだつたよな。

高橋

だから、ちゃんともつと練習しようつて。

高橋

してるよ。私らだつて頑張つてるよ。

高橋

でも、ちよつとキツいつていうか。

高橋

え？

生徒C 毎日朝練とかさすがにね。  
高橋 何テンション下がってるの。ここでそんなだと絶対全国大会無理だよ。  
生徒B 実際、ちょっと考えた方がいいかもよ。顧問も変わったしき、指導者なしで無理だって。  
生徒C このレベルの脚本じゃ県大会どころか、地区大会に残るのも厳しいかも。  
生徒B 中国大会まで出れるとかなら頑張れるけど、地区大会突破がいいところって想うと、夏休み、潰す意味だよな。  
生徒C 正直、それ達成したから何？、って言われたら何って感じたし。  
高橋 なに松本みたいなこと言ってるの。  
高橋 別に肩持っわけじゃないけど。  
生徒B もっと自分たちらしい部活っていうのを考えた方がいいんじゃないって。  
生徒C もっとっていく。高橋、顧問のもとへ向かう。  
生徒C どういうことですか？  
高橋 今度は何？  
高橋 どうして私が部長下ろされなきゃいけないんですか？  
高橋 それは私が決めたことじゃありません。  
高橋 じゃあどうして――  
高橋 みんなが決めたんです。みんなが、あなたにはついていけないって。  
高橋 生徒たちのもとへ向かう。  
高橋 どういうこと？  
高橋 別に高橋のやり方がダメってわけじゃないよ。  
生徒B ただ、ちょっとつけないっていうか。  
生徒C やっぱ、みんな無理してたし。  
生徒D なんか、あんま演劇、楽しくなくなっちゃって。  
生徒B だから、私たちはもっと演劇を楽しもうって決めたの。  
高橋 地区大会は？ 全国大会出場は？  
生徒B それよりもっと大事なことがあるじゃん。  
高橋 生徒Bにつかみかかる。とっくみあいになる高橋と生徒Bを周りの生徒が慌てて止める。そこへ、顧問が入ってくる。  
顧問 やめなさい、高橋さん。部活で学ばなきゃいけないことは、勝つことじゃありません。協調性です。今の君にはそれがいちはん欠けている。  
高橋 私は、ただ頑張りたいだけです。  
顧問 でも、その頑張りを人に強要するのは間違えている。  
高橋 じゃあ、もっと頑張りたい私の気持ちはどうしたらいいんですか？ 頑張りを無理強いするのは間違えていて、頑張らないのを無理強いするのは正しいんですか？  
高橋 そのルールを決めたのは誰ですか？  
顧問 文部科学省です。  
高橋 当事者は私です。何でそっやって私たちのことを私たちが知らないところで決めて、それを押し付けてくるんですか？  
顧問 それが、社会です。  
高橋 ……超絶どうでもいいわ。  
高橋さん、清水さんに謝りなさい。  
高橋 嫌です。  
高橋 暴力をふるったことを清水さんに謝りなさい。  
顧問 私は絶対に謝りません。  
高橋 わかりました。だったらちゃんと非を認めて謝るまで、練習への参加を禁止します。  
顧問 ひどりで練習をしている高橋。周りで、生徒たちが楽しく練習をしている。  
拍手。

生徒B 惜しかったよね。けっこう笑ってもらえたんだけどね。  
生徒C ええ。私があそこ飛ばさなかったら。  
生徒D いやいやよくやったって。  
生徒C 私、幕が降りた瞬間、めっちゃ、感激しました。

生徒E うん、頑張った頑張った。  
生徒B あ、この後、タピオカ？ラテバ行かない？  
生徒一同 行く〜！  
生徒A 生徒去っていく。残された高橋。そこへ生徒Aがやってくる。  
高橋 久しぶり。  
生徒A 先輩。  
高橋 終わっちゃったね、地区大会。  
生徒A すみません、地区敗退で。  
生徒A ……なんか変わっちゃったね、うちの部。あ、じゃあ。  
生徒A、去る。  
高まる音楽。高橋が亡霊みたいどこにも行けずに、ただひとりで震えている。  
高橋 私も出たかった。最後の大会だったのに。

## 【最終話】「あやまらなない」

突然、謝らせ人が集まってくる。

謝らせ人 謝ればよかったのに。頭下げて解決するなら。  
謝らせ人 仲間に戻るなら。  
謝らせ人 反省したふりして、それでみんな納得するんなら。  
謝らせ人 そっちの方がよっぽど賢かったのに。  
謝らせ人 頭を下げて死めわけじゃありませんし。  
謝らせ人全員 謝っちゃえばよかったんですよ。  
その瞬間、どこからか佐藤が立ち上がる。  
佐藤 謝るな！  
高橋 え。  
佐藤 そんな簡単に謝るな！  
高橋 誰？  
どこからか鈴木が立ち上がる。  
鈴木 自分が間違えてると思ってるなら、謝るな！  
謝らせ人 謝るな。  
謝らせ人 謝るな。  
謝らせ人 謝るな。  
鈴木と佐藤が割り込んでくる。  
佐藤 悪くないじゃない別に。悪いこと何もしてないでしょ。  
謝らせ人A 仲間たちの心は、わからなかった。  
謝らせ人B 自分一人で突っ走った。  
高橋 自分が間違ってると思ってるなら、毅然とすべきです。  
佐藤 いや、謝ればよかった。謝りたくないなんて、そんなただの意地。それで、一生後悔する。  
鈴木 はあ？  
高橋 適当に謝っとけばよかった。心になくたって、相手にはわかんない。自分が謝ってやったって、こっそり舌出して、相手のことなんて馬鹿にしてやればよかった。  
佐藤 自分の気持ち押し殺して、言いなりになって。そっちの方が悔しくないですか？相手の思う通りになること自体が負け。  
高橋 いや、勝ち負けの問題じゃないと思っんですけど。  
鈴木 負けです。叩く方は自分を正義だと思えます。どんどんエスカレートして、そのうち正義のヒーローになるために人を叩くようになる。気持ちいいですから、自分が正しいことをして、るって思えるのって。

佐藤

私もそうでした。一度間違えたからわかるんです。

鈴木

で、周りは周りで叩かれるのが嫌だからとにかく先に何でも謝ってすませようとする。

佐藤

問題なのは、謝りすぎることだけじゃなくて、謝らせすぎることもなのかも。

高橋

でも、謝って話がつましくいくなり、それでいいと思う。

佐藤

本当に？

高橋

そうだよ。謝ることは、自分の身を守る方法でもあると思う。

佐藤

それで傷つかずにいられますか？

謝らせ人A

そんなに大きにならなくても。とりあえず謝っておけばいいんですから。

鈴木

私もそう思いました。この場をおさめるためにも、とりあえず謝っておこうって。でも！

佐藤  
鈴木  
鈴木  
佐藤

私、お母さんに謝るたびに、「どンドン自分を奪われる気がしてた。大切なものを全部お母さんに明け渡してからっぽになっていく気がしてた。私はお母さんのものじゃないのに、どうしてそのひと言がお母さんに言えなかった。そういう自分が嫌いだった。謝ってばかりの自分が嫌いで、自分のことを嫌いにしかなれない自分が嫌いだった。謝ってばかりの守ってよ。自分のやりたいことぐらい、自分で守ってよ！  
そう、謝るのは、安易に謝った自分になんた……。

鈴木

(笑顔で) あのとみんなの言う通りにするしかできなかった私——！ 大切にしておくれなくてごめん

高橋

(笑顔で) ずっとお母さんの顔色ばかり気にしてた私——！ 守ってあげられなくてごめん

高橋

さ——い！ で

佐藤

(笑顔で) 自分を信じて、仲間も、舞台も、失った私……。信じ続けられなくてごめん

鈴木

も、もう迷わない。うっん、やっぱり迷つかも……。だけど、信じたい！

鈴木

そう、信じよう！

高橋

怖くても。

高橋

必死で考える！ 自分で！

佐藤

自分で！

鈴木

自分で！

高橋

自分で考える！自分を。

3人

信じる！

コロス

あつははははは、青いな。

〈幕〉